

令和8（2026）年は、昭和元（1926）年から満100年目の節目の年に当たります。

我が国の社会保障制度は、戦前～戦時中に礎が築かれ、段階的に発展し、今日の社会保障のベースは主に昭和初期に形作られました。

厚生労働省では、この100年の社会保障の歩みを振り返るWEB連載「昭和100年の社会保障」を実施しています。本連載ではこの100年を5つの時代に区切って、時代の変遷とともに社会保障がどう形作られてきたか、どう見直されてきたかを全8回で振り返っています。

厚生労働白書に登場する各制度について、その成立の背景や変遷を時系列でご確認いただくとともに、「揺りかごから墓場まで」と言われる社会保障制度を、次の100年、さらにそのまた次の100年へとつないでいくためには何が必要なのかを考える参考になりますので、社会保障制度の理解を支える補足資料として、ぜひご一読ください。



第1回（社会保障の役割）

私たちが生涯を通じて直面する病気や怪我、老後といったリスクに対し、この仕組みがなぜ必要なのか、その根本的な役割と意義を改めて整理できる内容です。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/12.html



第5回（昭和61～80年 ①）

少子高齢化が急速に進行し、世帯のあり方が大きく変わった激動の20年を振り返ります。バブル期の社会変化と、その後に生じた新たな社会的課題への背景を説明します。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/32.html



第2回（昭和元年～20年）

現在の国民健康保険などの基礎となる、当時の「健康保険制度」や「厚生年金保険制度」の創設期の歩みを紐解きます。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/18.html



第6回（昭和61～80年 ②）

本格的な高齢化に伴い導入された「介護保険制度」の創設や、年金・医療の持続可能性を高めるために実施された抜本的な構造改革の動きを解説します。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/34.html



第3回（昭和21～40年）

昭和36年に達成された、国民全員が医療保険と年金に加入する「国民皆保険・国民皆年金体制」の確立と、福祉国家への土台づくりを解説します。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/24.html



第7回（昭和81～100年）

高齢者中心の給付から、こども・子育て世代を含めた全世代を支える仕組みへの転換を追います。また、地域社会全体で支え合う仕組みへの取組みなどを解説しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/37.html



第4回（昭和41～60年）

高度経済成長期を背景とした「福祉元年（昭和48年）」の諸制度拡充と、その後のオイルショックを契機とした、安定的な制度運営に向けた見直しの変遷をたどります。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/27.html



第8回（まとめと展望）

連載の総括として、少子高齢化が進む次の世代へと持続可能な形でつなぐための課題と展望が示されています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/38.html

